



吉田秀美 Hidemi Yoshida

大学で薬学を専攻。自分の病気を機に現代科学の医学・薬学に不足を感じ、中医学やアロマテラピー、フラワーエッセンス、メディカルハーブを学ぶ。その後、アントロポゾフィー医療を知るに至り、学びの中心をアントロポゾフィーに置く。現在、アントロポゾフィーに基づく日本薬剤師協会の会員。ハルモニアフィット研究所を立ち上げ、生薬の研究を行いながら、「植物の本質を認識するゲート観察会」「パッチフラワーエッセンス 星と植物」などの教室を開催。また神之木クリニックにて、ゲート観察をもとに植物を理解し、洞察とともに製剤に携わる。

丹羽敏雄 Toshio Niwa

京都大学理学部において数学を専攻。大学時代、ゲートに出会い大きな影響を受ける。30代半ばシュタイナーの人智学に出会う。数学の研究・教育の傍ら、オイリュトミーに熟中。人智学をドイツ、イギリスなどで学ぶ。現在、ゲート・シュタイナーの科学、バイオグラフィー・ワーク、占星学、カバラを研究。バイオグラフィー・ワーク・カーズ・ジュピター会員。理学博士、津田塾大学名誉教授。人智学関連著書に『やさしい占星術』、『星々と木々』、『シュタイナーの老年学』、『百合と薔薇』、『沈黙のコスモロジー』、『シュタイナーの人生学』他。訳書に『境界に立つ I・II』、『植物への新しいまなざし』、『エーテルと生命力』、『魂の救済』、『アントロポゾフィーの礎』、『人間と大地における惑星の作用と生命プロセス』

A5変型フランス装 本文128頁

定価2750円 (2500円+税)

ISBN978-4-903865-51-5

月とヨモギ

—女性性に寄り添う薬草

吉田秀美・丹羽敏雄 著

植物という対象が自ら語る言葉に聞き入り
私たちの魂の中に受け入れ
対象の本性を見抜こうとする・・・

ヨモギは立派な花を咲かせようとするキク科の一員なのに、花の形成を拒むように生命的な領域に留まり続けようとしています。これがヨモギの最大の特徴なのです。

夏が近づくと側枝を伸ばし始め、繊細な葉をつけるようになります。こうしてヨモギは、旺盛な地上的生命力と同時に香りなどの天上的な質も保持し続けます。このヨモギの姿こそ、とくに女性の月経に関わる諸症状への有効性が期待される、薬用としてのヨモギの源泉です。

その姿は月の持つ二面性そのものであり、女性の月経リズムと深く重なり合うのです。

もくじ

- 1 ヨモギと出会う
- 2 ヨモギの観察
- 3 『キク科』の中のヨモギ
- 4 ヨモギの熱と光
- 5 月とヨモギと女性
- 6 前半の纏めに代えて 月経と鎮魂
- 7 月一生命と宇宙諸力の仲介者
- 8 神話にみる月の諸力
- 9 母性とは何か——イシス神話



表紙デザイン／浜田さやか ヨモギの挿絵／井上悦子

株式会社 涼風書林

〒152-0004 東京都目黒区鷹番 1-14-16

Tel/Fax 03-3710-5160

URL : <http://www.kirisutoshakyodotai.org/ryofu.html>

E-Mail : ryofu@kirisutoshakyodotai.org

涼風スペース : <http://ryofu-shorin.jimdo.com>

郵便振替口座 : 00180-1-356521